平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月10日

上場会社名 株式会社 ゴルフ・ドゥ　　上場取引所　名
コード番号 3032　URL http://www.golfdo.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 伊東 龍也
問合せ先責任者　(役職名) 取締役経営管理本部長　(氏名) 大井 康生　TEL 048-851-3111

四半期報告書提出予定日　平成26年2月12日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	3,348	△3.3	11	△91.1	8	△93.1	△40	―
25年3月期第3四半期	3,461	12.0	131	0.7	129	3.8	84	△16.5

(注)包括利益　26年3月期第3四半期　△19百万円　(―%)　25年3月期第3四半期　90百万円　(△5.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△32.55	―
25年3月期第3四半期	68.41	―

当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いましたが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	2,171	506	23.3	408.72
25年3月期	2,127	526	24.8	424.65

(参考)自己資本　26年3月期第3四半期　506百万円　25年3月期　526百万円

当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いましたが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	―	0.00	―	0.00	0.00
26年3月期	―	0.00	―		
26年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,300	△2.8	△35	―	△60	―	△120	―	△96.74

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いましたが、連結業績予想の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
②①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	1,311,300 株	25年3月期	1,311,300 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	70,900 株	25年3月期	70,900 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	1,240,400 株	25年3月期3Q	1,240,400 株

当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いましたが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査の手続きの対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続きは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (1)経営成績に関する説明」をご覧ください。

当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、業績予想の1株当たり当期利益額については、当該株式分割の影響を考慮しております。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 3
４．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（四半期連結損益計算書関係） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間における我が国の経済は、政府の経済政策への期待などで、円安の進行と株式市場の好転により景況感は改善傾向にあります。しかしながら、設備投資の意欲は鈍く、実体経済は確実な回復までには至っていない中で推移いたしました。

ゴルフ業界におきましては、国内の人気大型ブランドのモデルチェンジが発表され、多少の回復傾向はみられましたが、ゴルフ用品市場を大きく牽引するほどの影響はなく、一品単価の下落や一向に収まる気配のない価格競争が続いております。よって、表面的な売上は堅調に推移しているものの、業界全体の収益の悪化傾向が続いております（矢野経済研究所「ＹＳＰゴルフデータ」）。なお、経済産業省「特定サービス産業動態調査」におきましては、平成25年11月のゴルフ場／練習場の利用者数が前年同月比103.9%／99.3%と第２四半期連結累計期間に比べ２～３ポイント上昇し推移しております。

このような経営環境のもと当社グループでは、事業全体の成長戦略の柱として直営店の出店拡大に向け、「ゴルフドゥ！」ブランド認知度アップのためのラジオＣＭ、店舗開発本部の新設、来期新卒者の大量採用活動などに先行投資を行って参りました。また、直営事業では既存顧客の囲い込みや新規顧客獲得に販促費を投入し、売上獲得に向かいましたが、結果として収益を圧迫する厳しい状況が続いております。営業販売事業では、受注金額に回復傾向がみられるものの、引き続き前年から大幅な売上減となりました。なお、スクエアツウ・ジャパン株式会社、The Golf Exchange Inc.に係るのれんは事業計画を見直した結果、株式買収時に想定していた収益が見込めないと判断し、減損損失として26百万円の特別損失を計上しております。また、繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額を11百万円計上しております。店舗につきましては、直営事業において平成25年４月に１店舗、10月に都市型小規模店を１店舗出店いたしました。フランチャイズ事業におきましては、平成25年５月に３店舗閉店、９月に１店舗移転リニューアル、そして10月には新規加盟による練習場パッケージ２号店が出店となりました。平成25年12月末日現在の営業店舗数は全国で合計74店舗となっております。

この結果、当第３四半期連結累計期間の業績は売上高が33億48百万円（前第３四半期連結累計期間34億61百万円）、営業利益が11百万円（同１億31百万円）、四半期純損失は40百万円（前第３四半期連結累計期間は四半期純利益84百万円）となりました。

◆ゴルフドゥ！店舗月次データ（売上高前年比）は以下のとおりであります。

月	H25年 10月	H25年 11月	H25年 12月	第３四半期合計	第３四半期累計 合計
チェーン全店	99.9%	100.3%	107.6%	102.5%	100.7%
チェーン既存店	96.0%	99.1%	104.0%	99.6%	97.8%
直営全店	114.7%	105.1%	102.6%	107.5%	108.7%
直営既存店	102.4%	101.2%	97.0%	100.2%	99.5%
ＦＣ全店	93.1%	97.9%	110.2%	100.0%	97.0%
ＦＣ既存店	93.0%	98.1%	107.9%	99.3%	97.0%

なお、セグメント別の状況は以下のとおりであります。

①（直営事業）

当第３四半期連結累計期間におきましては、4月と10月に新規出店を行いましたことにより、当第３四半期連結累計期間の売上高前年比は108.2%と増収になりました。また、スーパーバイザー制度を復活させた新体制のもと既存店の予算達成のための行動計画を推進し、認知度向上と新規顧客獲得に向けたラジオＣＭ、既存顧客の囲い込みに販促費を投入いたしました。しかしながら、販売・買取りともに競合各社との価格競争によって収益を圧迫する厳しい状況が続きました。

その結果、直営事業の売上高は21億35百万円（前第３四半期連結累計期間19億73百万円）となりました。また、セグメント利益は95百万円（同１億28百万円）となりました。

②（フランチャイズ事業）

当第３四半期連結累計期間においては、平成25年５月中旬にエリアフランチャイズ加盟企業の方針変更に伴い、小規模店舗が３店舗閉店しましたが、10月に新規加盟による練習場パッケージ2号店が売上に寄与し、当第３四半期連結累計期間の売上高前年比は102.1%と増収となりました。しかしながら、計画通りのロイヤリティ収入を確保するまでには至らず、セグメント利益前年比は97.1%となりました。

その結果、フランチャイズ事業の売上高は２億90百万円（前第３四半期連結累計期間２億84百万円）となりました。また、セグメント利益は１億21百万円（同１億24百万円）となりました。

③（営業販売事業）

当第３四半期連結累計期間におきましては、売上高前年比は76.7％となり減収、セグメント損失も６百万円となり減益となりました。その大きな理由といたしましては、平成24年暮れ以降の急激な円安により輸入商材の割安感が無くなったこと、そして今期の新商品には昨期ほどのヒット商品が無く取引先からの受注が大幅に減少いたしましたことが挙げられます。売上高は期初からの販売方針変更や販売商材を見直ししたことにより第２四半期連結累計期間の売上前年比と比べ4ポイントほど回復して参りました。

その結果、営業販売事業の売上高は９億22百万円（前第３四半期連結累計期間12億３百万円）となりました。また、セグメント損失は６百万円（同利益55百万円）となりました。

（２）財政状態に関する説明

◆資産、負債、純資産の状況

（資産）

当第３四半期連結会計期間末における総資産は21億71百万円となり、前連結会計年度末に比べ44百万円増加いたしました。

流動資産は、15億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ81百万円増加しました。これは主に現預金が55百万円、商品及び製品が10百万円増加したことによるものです。

固定資産は、５億97百万円となり、前連結会計年度末に比べ36百万円の減少となりました。これは主に固定資産32百万円の増加と減価償却累計額34百万円の増加、のれんの償却13百万円、のれんの減損26百万円によるものです。

（負債）

流動負債は、９億８百万円となり、前連結会計年度末に比べ22百万円減少しました。これは主に買掛金が74百万円減少したことと、短期借入金が39百万円増加したこと、１年以内返済予定の長期借入金が10百万円増加したこと、そして賞与引当金が８百万円減少したことによるものです。

固定負債は、７億56百万円となり、前連結会計年度末に比べ87百万円増加しました。これは主に長期借入金が65百万円増加と退職給付引当金が14百万円増加したことによるものです。

（純資産）

当第３四半期連結会計期間末における純資産は５億６百万円となり、前連結会計年度末に比べ19百万円減少いたしました。これは主に利益剰余金40百万円及び評価換算差額20百万円増加によるものです。この結果、自己資本比率は23.3％（前連結会計年度末は24.8％）となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関する事項につきましては、平成26年２月10日に修正いたしました。急激な円安による営業販売事業が苦戦する中、成長戦略の柱として直営店の出店拡大に向けて顧客基盤の強化と新規顧客獲得に向けて積極的に取り組んでまいりました。その結果、顧客基盤は着実に拡大いたしましたが、連結売上高は円安の影響により当初予想を下回る見込みとなりました。一方、成長のための戦略的費用を投入したことや、競合各社との価格競争により利益を圧迫する厳しい状況が続き、連結営業利益、連結経常利益ともに大幅に下回る見込みとなりました。さらに、繰延税金資産の取り崩しと、のれんの減損損失を取りこんだことにより連結当期純利益も下回る見込みとなりました。その内容は、連結売上高4,300百万円、連結営業損失35百万円、連結経常損失60百万円、連結当期純損失120百万円の見込みであります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

４．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成25年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	253,818	309,734
受取手形及び売掛金	213,567	212,335
商品	947,867	958,581
繰延税金資産	38,562	27,933
その他	40,992	67,516
貸倒引当金	△1,781	△1,650
流動資産合計	1,493,026	1,574,450
固定資産		
有形固定資産	205,204	208,786
無形固定資産		
のれん	39,322	－
その他	35,539	34,907
無形固定資産合計	74,861	34,907
投資その他の資産		
投資有価証券	14,481	18,157
敷金及び保証金	154,035	159,599
建設協力金	140,983	133,304
繰延税金資産	1,309	1,467
その他	45,514	43,200
貸倒引当金	△2,167	△2,167
投資その他の資産合計	354,157	353,560
固定資産合計	634,223	597,254
資産合計	2,127,249	2,171,704
負債の部		
流動負債		
買掛金	283,766	209,297
短期借入金	261,419	301,090
1年内返済予定の長期借入金	219,066	229,364
未払法人税等	14,874	3,172
賞与引当金	20,179	11,789
ポイント引当金	21,402	22,491
その他	110,772	131,412
流動負債合計	931,481	908,617
固定負債		
長期借入金	487,092	552,825
繰延税金負債	6,029	7,092
退職給付引当金	103,267	117,998
資産除去債務	28,341	32,898
その他	44,300	45,300
固定負債合計	669,031	756,113
負債合計	1,600,512	1,664,730

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成25年12月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	501,320	501,320
資本剰余金	178,372	178,372
利益剰余金	△140,620	△181,226
自己株式	△23,625	△23,625
株主資本合計	515,447	474,841
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,523	1,151
為替換算調整勘定	13,813	30,980
その他の包括利益累計額合計	11,290	32,131
純資産合計	526,737	506,973
負債純資産合計	2,127,249	2,171,704

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）
売上高	3,461,553	3,348,366
売上原価	2,313,122	2,215,471
売上総利益	1,148,430	1,132,895
販売費及び一般管理費	1,017,030	1,121,197
営業利益	131,399	11,697
営業外収益		
受取利息	2,365	2,493
受取手数料	2,183	2,378
為替差益	3,554	2,249
その他	1,436	204
営業外収益合計	9,540	7,325
営業外費用		
支払利息	10,242	9,653
その他	839	380
営業外費用合計	11,081	10,034
経常利益	129,858	8,989
特別損失		
減損損失	－	26,214
特別損失合計	－	26,214
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	129,858	△17,225
法人税、住民税及び事業税	42,560	11,559
法人税等調整額	2,438	11,584
法人税等合計	44,998	23,143
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	84,859	△40,369
四半期純利益又は四半期純損失（△）	84,859	△40,369

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	84,859	△40,369
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,730	3,675
為替換算調整勘定	8,539	17,166
その他の包括利益合計	5,808	20,841
四半期包括利益	90,667	△19,527
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	90,667	△19,527

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結損益計算書関係）

※減損損失

当第３四半期累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年12月31日）

当第３四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	減損損失（千円）
－	のれん	－	26,214

スクエアツウ・ジャパン株式会社　The Golf Exchange Inc.に係るのれんについて、取得時に検討した事業計画において、当初想定していた収益を見込めなくなったことから、帳簿価額全額を減額しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

（セグメント情報）

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自平成24年４月１日 至平成24年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	直営	フランチャイズ	営業販売	合計
売上高				
外部顧客への売上高	1,973,599	284,573	1,203,381	3,461,553
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－
計	1,973,599	284,573	1,203,381	3,461,553
セグメント利益	128,589	124,671	55,946	309,206

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	309,206
のれんの償却額	△13,107
全社費用（注）	△164,700
四半期連結損益計算書の営業利益	131,399

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自平成25年４月１日 至平成25年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	直営	フランチャイズ	営業販売	合計
売上高				
外部顧客への売上高	2,135,359	290,412	922,594	3,348,366
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－
計	2,135,359	290,412	922,594	3,348,366
セグメント利益又は損失(△)	95,151	121,071	△6,311	209,910

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	209,910
のれんの償却額	△13,107
全社費用（注）	△185,105
四半期連結損益計算書の営業利益	11,697

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．報告セグメントの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

のれんについて、26,214千円の減損損失を計上しております。減損損失の概要につきましては「第４ 四半期連結財務諸表　（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結損益計算書関係）」をご参照ください。